

タイ国の経済および貿易の変調

昭和47年12月

海外技術協力事業団

122
81
EX

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 21	122
登録No. 01076	81
	EX

目 次

I	早ばつを含むタイ経済の動きに影響を与える主な要因	1
1-1	タイ経済の基調の変化	1
1-2	輸出が前年よりも減った年はすべて前年が 不作の年であった	1
1-3	輸出に影響を与える米の不作とは	3
1-4	貿易インバランス	4
1-5	米軍のサービス購入のタイ経済へ与える影響	5
1-6	投資と製造業の成長	7
II	不作が予想される1972年の農産物	8
2-1	タイの農業シーズンと降雨量	9
2-2	水不足のおこり易い地域	9
2-3	本年の降雨状況	10
2-4	1972年農業シーズンの農産物状況	16
2-5	9月に降った雨	22
III	本年の後半から予想される不作のタイ経済への影響	22
3-1	1972年の農産物の不作の影響	23
3-2	米軍のサービス購入	23
3-3	おわりに	24

JICA LIBRARY



1050356[3]

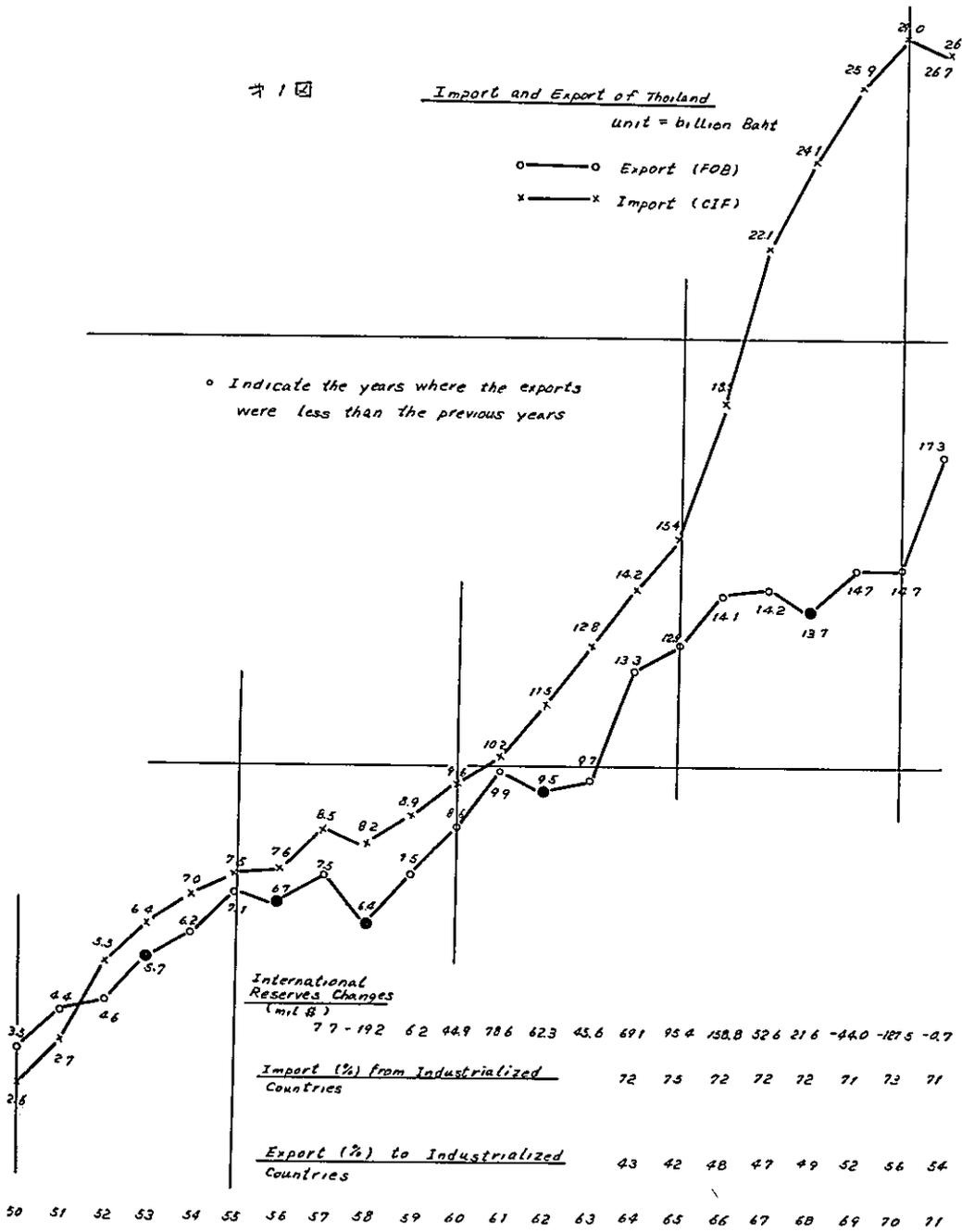
才 1 国

Import and Export of Thailand

Unit = billion Baht

○ — Export (FOB)
 x — Import (CIF)

○ Indicate the years where the exports were less than the previous years



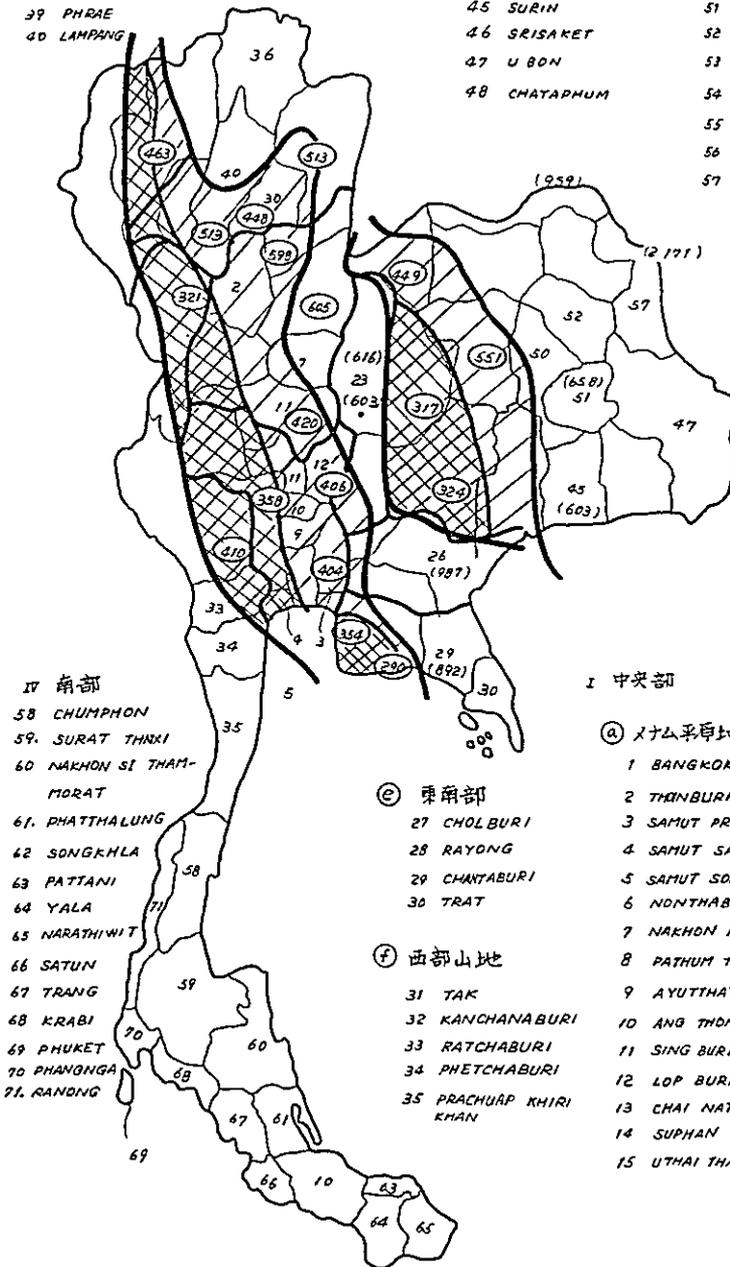
ネ 2 図

II 北部

- 36 CHIENGRAI 41 LAMDOON
- 37 CHIENGMAI 42 MAE HONG SON
- 38 NAN
- 39 PHRAE
- 40 LAMPHONG

III 東北部

- 43 NOKORN RAJSIMA 49 KMON KAEN
- 44 BURIRUM 50 MAHA SARA KHAM
- 45 SURIN 51 ROI-ET
- 46 SRISAKET 52 KALASIN
- 47 U BON 53 LOEI
- 48 CHATAPHUM 54 UDORN
- 55 SAKON NAKORN
- 56 NONG KAI
- 57 NAKORN PHANOM



注

- 1 () 及び ○ 内は 5-8月間の雨量
- 2 旱はつ地域
- 3 旱はつのひどい地域
- 3 半島の東側の雨期は 11月に始まる

IV 南部

- 58 CHUMPHON
- 59 SURAT THANI
- 60 NAKHON SI THAM-MORAT
- 61 PHATTHALUNG
- 62 SONGKHLA
- 63 PATTANI
- 64 YALA
- 65 NARATHIWIT
- 66 SATUN
- 67 TRANG
- 68 KRABI
- 69 PHUKET
- 70 PHANGGA
- 71 RANONG

(e) 東南部

- 27 CHOLBURI
- 28 RAYONG
- 29 CHANTABURI
- 30 TRAT

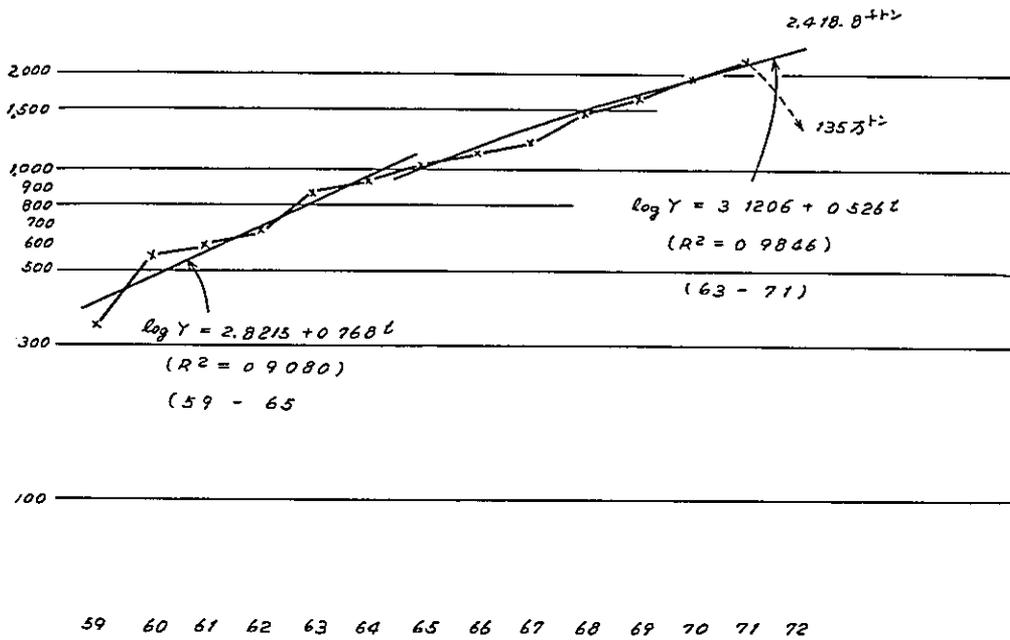
(f) 西部山地

- 31 TAK
- 32 KANCHANABURI
- 33 RATCHABURI
- 34 PHETCHABURI
- 35 PRACHUAP KHIRI KHAN

I 中央部

- (a) メナム平原地域
- 1 BANGKOK
- 2 THONBURI
- 3 SAMUT PRAKAN
- 4 SAMUT SAKON
- 5 SAMUT SONKRAH
- 6 NONTHABURI
- 7 NAKHON RATHOM
- 8 PATHUM THANI
- 9 AYUTTHAYA
- 10 ANG THONG
- 11 SING BURI
- 12 LOP BURI
- 13 CHAI NAT
- 14 SUPHAN
- 15 UTHAI THANI
- (b) メナム上流
- 16 NAKONSAWAN
- 17 PHICHIT
- 18 KAMPHAMPHET
- 19 PHITSANULOK
- 20 SUKHOTHAI
- 21 UTTARADIT
- (c)
- 22 SARABURI
- 23 PECHABOON
- (d) パンパコン流域
- 24 NAKHON NAYOK
- 25 CHACHENGSAO
- 26 PRACHIN BURI

オ3図 とうもろこしの生産傾向線 (単位千トン)



タイの経済及び貿易の変調

I 旱ばつを含むタイ経済の動きに影響を与える主な要因

1-1 タイ経済の基調の変化

1971年はタイの経済基調に大きな変化があった年だと思います。貿易の点だけから見ても未曾有の変化が起きています。すなわち輸入額が前年より減って、輸出額が対前年急増していることです。(第1図参照)

戦後、1950年以降のタイの貿易額を洗ってみますと、過去20年間、輸入額は、ただ1度1958年を除いて毎年増加して来ています。

1958年は輸入額がなるほど対前年比実額で減少していますが、それと同時に輸出額も減っています。~~□□~~タイのように元来は商品取引の外に外貨収入のない国では輸出が減ったから輸入も減ったのだと見てよいのではないかと思います。

しかるに1971年は輸出が急増しているのに輸入が減ると云った戦後始めての現象が起りました。戦後始めての現象は、やはりそれなりに基調変化の意味をもつものだと思いますので、戦後のタイの貿易の特徴らしいものについて、二・三ふれることにしたいと思います。そうすることが、今後70年代を通じて、タイの貿易を含めての経済の動向を占うよすがとなることでしょうから。

1-2 輸出が前年よりも減った年はすべて前年が不作の年であった

過去20年間、タイの輸出額が、その前年より減少した年が4回ありました。1956, 58, 62, 68年の4年です。(第1図の黒い丸点のある年) これらの年の前年にあたる1955, 57, 61及び1967年は、何れも不作の年にあっており、その翌年の末の輸出量が、せいぜい100万~120万トンになっています。(第1表のI及びII参照)

タイは1960年代に入って米以外の農産物の輸出も増えては来ましたが、米の不作の年はおそらく、米以外の作物もあまり出来はよくないのでしょう。したがって米の豊凶を見ておればその他の作物の豊凶もおそらく「右へならえ」の姿勢をとるものと思います。

第1表

I Rice Production Record

	Rice Yield	Cultivated		Harvested		Paddy	
	acreage (1,000rai)	area (1,000rai)	%	area (1,000rai)	%	1,000M/T	kg/Rai
<u>1955</u>	40,124	36,059	<u>89.7</u>	33,598	<u>93.2</u>	7,333	218
56	40,986	37,648	91.9	36,013	95.7	8,296	230
<u>57</u>	41,528	31,716	<u>76.4</u>	26,793	<u>84.5</u>	5,570	208
<u>61</u>	43,528	38,619	<u>88.5</u>	35,349	<u>91.5</u>	8,176	231
62	44,589	41,418	93.3	38,695	93.0	9,279	240
<u>67</u>	49,006	40,064	<u>81.8</u>	35,006	<u>87.4</u>	9,594	274
<u>68</u>	50,526	44,681	<u>88.4</u>	39,117	<u>87.6</u>	10,772	275
69	51,433	47,732	72.8	45,284	94.9	13,346	295
70	52,289	48,763	73.2	44,569	91.4	13,401	300

Remarks 1. e] estimated

2. Underlineds indicate poor harvest

II Export of Rice following the year

1955 (56)	1,264
56 (57)	1,570
57 (58)	1,132
61 (62)	1,271
62 (63)	1,417
67 (68)	1,068
68 (69)	1,023
69 (70)	1,063
70 (71)	1,661

単位(万トン)

とにかく戦後に関する限り、不作の年の翌年は、輸出額が前年よりも小さいと云う不文律は輸出工業品の不成熟な間は今後も、タイの経済に適用されることと思います。

1-3 輸出に影響を与える米の不作とは？

それではタイの輸出に大きな影響を与える農産物の代表である米の不作とは一体どう云うことでしょうか。

人口の増加につれて農用地も目下どんどん増加していますが、日本のようにかんがい、排水が完備していませんので、雨期に入ってから降雨の状況によって、

- ① 降雨の量と分布がうまく配分されないと、植付が満足する面積まで行われなれないこと。
- ② 植付はされても、植付された面積全部について収穫が行われず、必ず何パーセントかは収穫不能になること。

の二つが、不作の原因となっており、植付不能の面積、及び収穫不能の面積が大きい程不作の度合いが著しいわけです。

経験的に云って、植付面積が90%を割るか、収穫面積が植付面積の90%を割るか、何れかの場合を不作の年としてよいでしょう。両方とも90%を割って収穫面積が、水田面積の80%以下にでもなれば、明かにその年は不作の年と云えるでしょう。何故90%という数字をこゝで出したかは、後出IIの項を御覧下さい。

第1表をもう一度御覧になって戴きますと、1957年の如きは、植付面積が、水田面積の76%、収穫面積が、植付面積の85%、収穫面積は実に水田面積の65%でしかない状態です。これは不作の年です。

しかるに豊作年の1969年、1970年には水田面積の約85%が収穫面積になっています。

なぜこんなに大きな変動があるかは、首題からそれることになりますので、こゝでは詳述することをさけることにしますが、簡筆するならば、タイの農業シーズンである雨期の降雨量の差が、毎年大きすぎるものが何よりの原因です。米の不作について冒頭からとやかく云うのは、後で述べるように1972年がどうも不作であることが決定的であり、翌年の1973年のタイの貿易の不振

が心配されるからです。

1-4 貿易インバランス

1960年代の後半は商品貿易の赤字が急激に増大したのがタイ経済の特長です。もう一度第1図を見ていただくとその事情がよくわかります。輸出は1966年から1970年に至るまで140億バーツ台を5年間もつづけていますのに輸入は1966年以降幾何級数的に増加しています。

タイの貿易は1855年に西欧に門戸を開いて以来、商品輸出は常に黒字をつづけていましたが（第2次大戦中の1時期を別にして）、1952年に輸入が輸出を上廻り、輸入超過になって以後、輸入超過の状態が以後ズンと続いています。そして前述のように1966年以後は輸入の急増と輸出の停滞の時期に入ります。元来商品輸出による外貨収入以外には、外貨収入の道がないタイにとって、このように大きな輸出入ギャップのあった時代にも、年々外貨準備が黒字であったことは、いろいろ迂余曲折がありましたが、大ざっぱに云って

- ① 1960年の前年までは、政府企業に対するローンの供与が大きく、
- ② 1960年の後半からは、アメリカ軍のサービス購入、(Bank of Thailandの資料では、Services Receipt=Military Servicesとなっています)私企業に対する海外からの直接投資、及び私企業に対するローンが大きくなっています。

これらの商品取引以外の外貨の流入によって外貨準備が毎年増えて来ましたので、慢性的商品取引の赤字を、外貨準備の増減の観点から見ればカバーしていたと云い得ます。以上のような意味における商品取引以外の外貨収入の主なものの増減関係は第2表を御覧になっていただきたいと思います。

1-5 米運のサービス購入のタイ経済へ与える影響

米軍のサービス購入が、タイの商品取引の赤字をカバーしたこと以上に、タイの経済に与える影響の大きいことに注目したいと思います。

- ① 米軍のサービス購入は、1965年から急増していますが、本格的に急増したのは66年からで、68年には約50億バーツに達しています。そしてそれが減少しはじめ、おそらくこの傾向は今後もつづくと思えるところにタイ側のいらだちがあるのでしょう。

これと平仄をあわせるようにアメリカのグラントも、1968年を最高に、減少して来ています。1971年は最高時の半分になっています（第2表の注参照）

第2表 Invisible の収入の主なもの （単位百万パーツ）

	政府企業に對するローン	米軍のサービスの購入	私企業に對する海外からの投資	私企業に對するローン	
	(1)	(2)	(3)	(4) 受入	支払
1962	1,108	204	156	233	482 - 249
63	705	361	346	579	908 - 329
64	191	438	374	810	1,415 - 604
65	18	922(1.1)	870(1.0)	317	1,112 - 795
66	- 268	2,589(2.6)	570(0.6)	331	1,335 - 1,004
67	- 247	4,109(3.8)	894(0.8)	976	2,181 - 1,205
68	- 253	4,917(4.2)	1,239(1.1)	671	2,389 - 1,718
69	- 239	4,629(3.5)	1,057(0.8)	1,296	3,669 - 2,372
70	- 211	4,192(3.1)	880(0.6)	1,001	4,029 - 3,028
71	- 20	3,800(2.6)	780(0.5)	420	3,885 - 3,465

注1. 政府企業のローンの受入・支払の内訳は省略しました。

傾向は受入が減少し、支払いは漸増して1968年に最高となり、その後減少しています。

2. この外にアメリカのGrant が次のようにあります。

年	Grant 額	年	Grant 額	(単位百万パーツ)
1962	555	67	799	
63	636	68	1,172	
64	395	69	864	
65	357	70	613	
66	433	71	520	

3. 米軍のサービス購入欄の()内はGNPに對する購入額のバ

ーセンテージ，私企業に対する海外からの投資のランの()も
同様GNPに対するパーセンテージ

② アメリカのサービス購入はタイの国内需要を促進し，GNP成長に大きな役割を果たしたことでしょう。こゝではGNPの成長とアメリカのサービス購入の関係は省略しますが，喚起された需要に応じて供給をする意味で各種産業がこの時期におこりました。産業資本の蓄積のない国ですから，一部商業資本が産業資本に転化したことはありますが，67年以降海外からの直接投資も目立って増えて来ておりますし，私企業に対する長期ローンも目立って増えて来ております。これらの一連の関係をもう一度第2表によって読みとっていただきたいと思ひます。

このような，Invisibleの外貨流入によって1960年代の後年の大きな商品取引の赤字をまかなって来たのがタイであると云って差支えないと思ひます。それにしても商品取引の赤字は，1960年代の後半にはあまりに大きく奇形化していることは，もう一度第1図を御覧になれば明白で，1966年以後アメリカのサービス購入が，急増して以来，輸入は年々大幅に増加するのに輸出は内需に喰われて，140億バーツ台を5年間つづけると云ったまことに不思議な停滞ぶりをつづけて来ました。

インバランス問題もこうした点が原因であって，70年代は，どうしてもこのような事態に対する調整が否応なしに必要となつて来ることと思ひます。その過程で貿易，国内経済のある部分ではおそらくいたい目に合うことも多いと思われまふ。

例えば，米軍支出を予定して1960年代の後半に，殊に68年以降に設立された国内需要目あてのいわゆるManufactured Goodsの製造や，チャチなアパート経営などは参っているようです。いわゆる供給過剰になっていることと思われるわけです。

第1図でみる限り，輸入が，270億バーツで，輸出が170億バーツしかないことは，タイの国全体としては供給不足なのですが，物によっては調整過程で，供給過剰のものがあるって，いたい思ひをしているのが現状ではないかと思ひます。

いたい部分があることはまことに気の毒なことではあります，退潮しているアメリカのサービスの購入に直接関連のあつた部分や更には間接的に恩恵の

あった部分に影響がないはずはなく、どの程度どれだけつづくのかは、サービス購入の減り方とその期間によると思います。

1-6 投資と製造業の成長

製造業の成長が投資に由来することは云うに及ばないことです。タイにおきましては、1960年の後半には外貨の導入もありましたが私企業の投資も1966年以降増加して製造業の成長を促がしています。1960年代に起ったタイの製造業が輸入代替産業であるとか何とか種々と定義づけされてはいますが、とにかく出来た製品が国内で売れたから、製造業も起り、また製造業に対する投資も行われたわけで、このように国内で売れる環境をつくってくれたのが、米軍のサービス購入の増加にあったと云っても過言ではないと思います。

私企業の投資実績は次の通りで、米軍のサービス購入の増加につれて投資額も1966年以後増加しています。()内の数字はGNPに対するパーセンテージです。

年	投資実績および対GNP比
1965	106億 パーツ (12.5)
66	136億 " (13.5)
67	166億 " (15.4)
68	185億 " (15.7)
69	212億 " (16.2)

1970年以降の数字がどうなっているのか未だ発表されていませんが、1970年はどうも、200億前後に実数が減りGNPに対する割合も15%を割っているようです。(NEDBの推定)

民間投資の額の減少に平仄を合せるように海外からの投資はこれまた米軍のサービス購入と同じように、1968年を最高にして、減り始め、1971年には、最高時の64%にまで落ち込んでいます。この減少率は、米軍のサービス購入の減少率(1971年が最高時の76%)よりも急激です。

個人投資の対前年比の伸び率と製造業の対前年比伸び率を比べてみますと

	個人投資の対前年比 伸び率	製造業の対前年比 伸び率
1966	28.3%	15.8%

1967	22.0%	15.8%
68	11.5%	9.3%
69	14.6%	9.1%

個人投資の伸び率と製造業の伸び率は必ずしも正比例しませんが、少なくとも投資の伸びが低ければ、製造業の伸びも対前年比低くなっています。

ところが1970年は、推定投資額が200億前後ですから、対前年比マイナス5%となります。製造業の伸びがこの国でどんな数字になるものか発表がまたれるわけですが、製造品の伸び率は相当対前年比で落ちるものと思われま^す。この時期に工業製品の輸出と云う事が急に出て来たことは、どう解釈すべきでしょうか。

私なりに解釈することを許されるならば、

1. 国内の購買力だけでは支え切れない供給が一部に出て来たこと これは設備投資の減少にもかゝらず、米軍のサービス購入の減少による需要の減退の影響を大きく受けているものと云えましょう。
2. それから商品取引の赤字を少しでも少くしようとする努力の二点にしばられると思います。

このようなタイ国内の経済的背景が、どうも1970年代のタイの経済、ひいては貿易の基調になるのではないかと思われま^す。

II 不作が予想される1972年の農産物

農産物が不作の年の翌年はタイの輸出額は前年を下廻ることが過去20年間例外なく適用されることを考えますと、もし1972年が不作ならば1973年のタイからの輸出は不振となることだろうと一応考えて不思議ではないはずで^す。

1916年から1950年までの35年間をふりかえって、統計処理して見ると、不作でないと思われる年が21年あり、これらの年には、収穫面積が、植付面積の平均90%となっている。そこで、一応、可耕水田面積の90%以下の植付面積であるか、植付面積の90%以下が収穫面積であるか何れかの年を不作の年としてよいであろうし、そして両方が90%を割る年は不作の度合

が著しい年だと見てよいと思います。

1916年から50年までの35年間のうち不作の年が14年あったから不作の頻度はまさに40%であり、その意味からも、1955年から72年までの18年間に、7年の不作年があっても別に不思議ではないこととなりますが数えてみると、頻度からみても、1972年が不作であっておかしくはない時期です。不幸にして、どうも不作の度合がつよくあられ、植付面積が可耕面積の90%を割り、収穫面積が植付面積の90%をわる年になりそうな点が心配されるわけです。

2-1 タイの農業シーズンと降雨量

タイの降雨期は普通4月の下旬から始まり10月の下旬におわる6ヶ月です。雨が安定して降り始めるのは普通5月ですから、一応5月～10月を雨期と見てよいと思います。そして雨期の間80%～90%の雨が降るものです。そして雨期が始まってから8月までに雨期間の雨の60%が降るのが通例です。

一つ困ったことは、雨期の初期には時に西南モンスーンの強さが一定していないので、時々風向が攪乱され、雨期中断現象がおこることです。いよいよ雨が降り出したと思ったとたんに、5月あるいは8月に雨が中断し、しばらく熱風が吹くことがあります、このような場合には、農業シーズンに入って、発芽後間もない作物の苗が水分不足によって、脱水状態を起し枯死することがしばしばあります。このような現象  雨期中断は、雨期期間の雨量不足と共にタイの農業にとって危険な要素となっています。

2-2 水不足のおこり易い地域

タイの雨期が印度洋の南西モンスーンによっておこる現象であることから、当然の結果として、

① 雨を合んだ風がまづビルマ国境の山脈を越える際にまづ雨をふらすのでタイでは、マレー半島の西側が最多雨の地域となる。

② ついで風が下降してメナム平原を吹きぬけるので、平原の西側の山かげは雨が少く、同じ平原でも東にうつってコーラート高原の西辺に近づくと再び上昇気流となって雨をふらすことになる。

③ コーラート高原に入ると再び下降気流となるので、コーラート高原とメ

ナム平原の境をはしる山の東側は雨が少い。

④ コーラート高原も更に東にうつり、ラオスに近くなると再び雨が多くなる。

⑤ 従って早ばつにかゝり易い地域はメナム平原の西側とコーラート高原の西側と云うことが概括的に云い得ると思います。勿論地形によって、モディフィケーションはありますが。

2-3 本年の降雨状況（降雨不足と雨期中断）

わづらわしく雨のことを述べるのが目的ではありませんが、何と云ってもこの国の農業が雨に左右され前述しましたように農業の不作の翌年が輸出額が減少していることを考えますと、降雨の状況とそれにつながる農作物の豊凶が心配になるわけで、1973年の経済なり貿易を占う意味をかねて、もう少し雨のことを続けさせて戴きたいと思います。

① 雨期中断（第3表参照）

本年の雨は、例年よりやゝ早く4月下旬に相当量の雨が各地に降った模様です。農民はいよいよ雨が来たと判断し、しかも本年は雨が多いと思ったのでしょう。この時に種を播いたようですが、残念ながら殆どの地域で5月と7月の2度にわたって雨期中断の現象がおきています。最も悪いのはコーラート高原の西側で、Nakon Rajsimaの如きは中断現象が8月までもつづいて農地はかわき切って、トウモロコシなどの畑作物の被害は顕著のようです。

② 雨量（第4表参照）

雨期が始って以来（すなわち5月以後）の雨期間の雨量は、各地によって異なりますが平年の60%～70%で、最近の最も悪い年であった1967年に比較しても更に5～10%少いと云った状況で、悪いことには、1967年の場合には、雨期中断の現象が1回でしたが本年は大体全国的に2回来ているようですし、この国の農業にとって大切な北部に雨が少いのも心配の種です。

③ 本年早ばつが予想される地域

以上のように1967年に比べて雨の状態が悪いことから少なくとも8月末までは本年は不作の色が極めて濃いと云わざるを得ず、そして、この国の農業にとっては、8月までの雨量と雨期中断のあり方が極めて重大な要素となっ

ています。9月はこの国では最も雨の多い月ですが、この月の雨量は早ばつにはもう影響はないことです。10月の末にはもう雨はあがるからです。

そこで、一応8月末までの雨期間の雨量をしめくゝって、550mmを割っている地域を早ばつにかゝっている地域と推定し、更に400mmを割っている地域を早ばつの被害の著しい地域と推定して図示しますと、第2図のようになり、相当広汎な重要農業地域が、本年は早ばつにかゝっていることが一覽出来ます。

第3表

Rainfall at Selected place

○=interruption of
rain season
□=Total from May through Aug
⊖=heavy rainfall in Sept.
by tropical depresser.

	Bangkok				Nakon Rajsima (unit=m/m)			
	Average Year	1967	1971	1972	Average Year	1967	1971	1972
JAN	125	63		—	4.4	—	1.7	—
FEB	26.1	—		199	31.7	0.3	9.8	5.3
MAR	280	42		188	62.4	2.7	50.2	74.4
APR	1060	676		1469	64.1	95.6	87.8	147.9
Subtotal								
A(JAN-APR)	1732	781		1856	161.6	98.6	149.5	227.6
MAY	1387	235.9		⓪22	155.4	180.9	113.4	16.8
JUN	144.2	⓪280		140.7	109.4	135.5	212.0	172.5
JUL	1631	1140		⓪95	167.3	86.4	61.8	51.6
AUG	148.8	1210		151.8	125.3	110.6	153.3	63.2
Subtotal								
B(MAY-AUG)	594.8	498.9		404.2	557.3	513.4	540.5	324.1
C(JAN-AUG)	768.0	577.0		589.8	719.9	612.0	690.0	551.7
Sept	316.2	165.1	381.0	⓪284	204.5	182.2	262.2	425.8
OCT	224.2	96.6	179.6		201.6	61.2	62.1	
NOV	55.2	36.2	2.8		32.2	65.0	—	
DEC	13.2	—	0.8		0.6	—	6.5	
D Year Total	1,377.3	8,749	1,483.9		12,392	9,204	10,208	
E Precipitation during rainy Season (5-10)	1,135.2	760.6			963.4	756.8	952.0	
F Accumulation (1-9)	1,084.2	717.1	1,137.5	1,218.2	924.4	794.2	952.2	977.5
G Precipitation	1,084.2	717.1	1,137.5	994.0	761.8	995.6	798.7	749.9
H Percentage of precipitation (5-10)	82.4	86.9			77.7	82.2		

第3表の2

	Nakon Sawan				Uttaradit			
	Average Year	1967	1971	1972	Average Year	1967	1971	1972
JAN	102	—	46	—	118	48	09	—
FEB	368	1.6	1091	32	227	236	108	98
MAR	50.8	4.4	635	135	32.4	—	331	336
APR	70.3	107.7	128	1178	75.9	31.7	89.5	191.3
A Total (1-4)	168.1	115.7	191.0	1345	142.8	80.1	134.3	234.7
MAY	151.7	102.6	155.2	345	174.7	219.7	376.7	57.4
JUN	110.1	71.5	51.3	169.3	199.8	82.7	366.5	197.8
JUL	154.3	77.0	37.5	42.9	219.4	200.6	200.4	124.6
AUG	157.6	157.1	413.2	239.5	233.6	160.7	310.5	218.6
B Total (5-8)	573.7	410.2	657.2	428.2	827.5	662.9	1251.1	598.4
C Total (1-8)	741.8	525.9	847.2	562.7	970.3	723.0	1385.4	833.1
SEPT	277.0	345.6	83.9	246.1	299.9	379.7	182.6	203.2
OCT	136.0	113.8	51.6		109.8	20.9	150.2	
NOV	21.6	90.9	2.9		20.0	18.2	13.0	
DEC	1.3	—	9.2		4.7	—	6.2	
D Year Total	1,178.0	1,076.2	994.8		1,402.7	1,141.8	1,740.4	
E Precipitation during rainy Season (5-10)	987.0	869.6	792.7		1,235.2	1,063.5	1,583.9	
F Accumulation (1-9)	1,018.8	871.5	931.1	806.8	1,170.2	1,122.7	1,616.3	1,036.3
G Precipitation during rainy Season (5-9)	850.7	755.8	741.1	674.3	1,027.4	1,042.6	1,433.3	801.6
H Percentage of Precipitation (5-10) to the Year	987.0	869.6			1,235.2	1,063.5		
	83.8	80.3			88.1	93.1		

第4表

Rainfall Accumulation at Selected Location

	1-8 total		1-4 total		5-8 total ²		Sept	
	1971	1972	1971	1972	1971	1972	1971	1972
NORTH								
1								
37 Chiang Mai	1,077.6	630.6	50.3	167.6	1,027.3	0 463.0	209.9	220.7
38 Nan	1,104.3	916.4	146.8	125.5	957.5	△ 513.2	60.0	101.5
40 Lampang	935.5	659.7	74.7	146.5	860.8	△ 513.2	213.2	142.1
39 Phrae	1,120.8	566.9	99.6	118.7	1,021.2	0 448.2	153.5	132.8
21 Uttaradit	1,385.4	833.1	134.3	234.7	1,251.1	598.7	182.6	203.2
× Phumipal Dam	601.4	387.2		85.8		× 301.4	244.4	359.5
31 Tak	558.2	401.7	16.5	80.1	478.1	× 321.6	167.3	218.8
19 Pisaneloke	1,208.5	739.4	143.6	123.8	1,064.9	605.6	263.1	206.8
23 Phetchaboon	710.4	729.4	146.1	113.2	564.3	616.1	130.2	145.7
0 Wichambun	893.9	655.4	89.2	53.5	804.7	602.9	153.8	248.8
NORTH EAST								
56 Nong kai	1,546.1	1,116.9	76.5	157.7	1,469.6	959.2	134.1	116.4
53 Loei	676.6	575.0	60.0	125.7	616.6	0 449.3	229.4	282.5
54 Udon	1,008.4	788.2	80.9	66.9	927.5	721.3	248.7	127.1
57 Nakhon Phanom	1,562.7	2,379.5	62.0	207.6	1,500.7	2,171.9	333.7	108.8
49 Khon Kaen	869.5	715.7	110.8	164.1	758.7	△ 551.6	204.7	120.9
51 Roi-et	1,127.1	1,002.9	120.5	145.3	1,006.6	857.6	340.2	191.9
48 Chayapoon	802.9	457.4	152.2	139.8	650.7	× 317.6	302.2	201.9
45 Surin	920.4	769.3	128.0	166.3	792.4	663.0	174.8	480.5
43 Nakhon Rajsima	690.0	551.7	149.5	277.6	540.5	× 324.1	262.2	425.8
CENTRAL								
16 Nakhon Sawan	847.2	607.7	190.0	134.5	657.2	0 473.2	83.4	246.0
12 Lopburi	847.1	519.7	135.5	113.6	711.6	0 406.1	179.2	519.0
14 Supanburi	579.1	483.3	143.3	125.6	435.8	× 357.7	259.2	455.6
32 Kanchanaburi	601.4	569.7	145.6	159.3	455.8	0 410.4	287.2	420.9
1 Bangkok	919.7	637.8		185.6		0 453.2	381.0	628.4
SOUTH EAST								
26 Prachinburi	1,524.7	1,165.8	201.1	188.2	1,323.8	987.6	330.6	320.5
27 Chonburi	898.4	480.5	145.6	126.0	752.8	× 354.5	208.4	391.2
28 Sathahip	1,064.7	719.2	312.0	429.0	757.7	× 290.2	386.0	362.1
29 Chantaburi	1,826.5	1,160.2	265.8	268.4	1,560.7	891.8	319.4	521.2

Remarks:

- 1 numbers of head of Provinces indicate the Same Number of the Provinces in the attached map For convenience
- 2 O in the column of 1972 are estimated drought Provinces
- × in the column of 1972 are estimated to be sutlered From heavy dronglet
- △ in the column of 1972 are estimated to be short of wator as Comparison with averaged Precipitation during the Period of Rainy season

2-4 1972年農業シーズンの農産物状況

① 不作を予測させる根拠

まづ認識しなければならないことは、農業に占める米と「とうもろこし」のウエイトです。たしかに「とうもろこし」は最近急にのびて来ましたが、価格ウエイトに考えて、大略農業生産の約50%が米、10%が「とうもろこし」と考えてよいと思います。ゴムも約10%のウエイトをもっています。

各種のデータの発表がおそく、しかも両三年後にデータがReviseされることしばしばある国のことですから、以下は全く個人的な感じでしかないわけですが、1972年は、少くとも1967年の不作の年よりは作柄が悪いのではないかと思われる次第です。

その根拠は

イ 雨期開始後8月までの雨量が、概して全国的に1967年より少いこと

ロ 1967年は雨期中断現象が1回であったのに本年は、おおむね全国的に2回あったこと

の2つが大きな原因です。

全国的な表を付けることは繁雑ですから、第3表の四地点を御覧になっていただきたいと思います。○で囲ってある月が雨期中断を示しています。B列の□で囲ったのが雨期開始後8月までの雨量ですが、Nakon Rajsimaの如きは例年及び1967年の60%しか降っていない上に、5月以来連続の旱天が続いた模様がよくわかります。これでは「とうもろこし」も出来ないでしょう。

この表には出ていませんが、北部のChiangMaiでは5月、7月、Phrueでは5月、6月、Takでは5月、7月、に中断していますし、中央原では広汎にわたって、5月と7月に中断しています。こうしたことを念頭に入れて、第4表の雨期間8月までの雨量表を御覧になっていただきますと、1967年よりどうしてもよい作柄であるとは思えないわけです。

② 予想される本年の農作業

これも推定の域を出ないわけですが、本年は雨が早く来ましたので、(第3表を御覧になるとコーラートでも4月に例年の倍以上の雨が降っています)農民はいよいよ農業シーズンが訪れたものとして、種を播いたのですが、5月の雨期中断で枯死したようです。6月にもう一度播いた種も発芽後7月の雨期中

断で枯れてしまい8月の雨を俟ったのですが、「とうもろこし地帯」では一部を除いて、8月の雨も少なかったので、とうもろこしの播き付けをあきらめ、ケナフや棉花を植えた処が多いように思えます。

タイの畑作ローテーションから考えて、

イ. 5~6月-8~9月 とうもろこし, 9~11月 豆類

ロ. 5~6月-8~9月 とうもろこし, 9~11月 落花生

ハ. 3~7月 とうもろこし, 8~12月 綿花

等が考えられますが、とうもろこしの作付を逸した、またはとうもろこしの作が悪かった農民が雨期の前半の不作を何とか補う意味で8月~9月にかけて何を植えるか、ケナフ、豆類、落花生、棉花等の作物に精を出すと思われるので或いはこのような作物は案外例年よりも量があるかも知れないと思われま

③ 不作を推定させる農産物の高騰

雨量の点からでなく、価格を見ても如何にも不作らしい動きを示して価格が上昇しているのが心配ですし、このような価格がやはりタイの不作を裏付けていると思います。

イ. とうもろこしは、アメリカと競争して日本に出すためには10ドル以上の逆ざやになっています。

ロ. 米は元来ならば、モチ米は普通米の価格の90~95%であるのに、本年はモチ米の方が高くなっていることは、モチ米の生産地であり、消費地である東北部コーラートの米の不作を予言するものと云えましょう。

④ 1972年の生産量の推定

この国の農産物の約60%が、米ととうもろこしですから、そして輸出も米ととうもろこしを合せると、この国の輸出の3分の1を占めることになりま

イ 米について

米はこの章の冒頭で述べましたように、可耕面積の90%が植付けられ、植付面積の90%が収穫されると平年作とみてよく、豊作の年はその何れもが90%を上廻っています。(第1表参照)

本年は、繰返して述べるように、8月末までの雨は、第4表のように一部の小地域を除いて前年の約半分であり、最近の不作年であった1967年より更

に悪い。困ったことには、本年は、米作に重要な北部に雨が少いことです。北部にさえ雨が降れば、この雨は全部メナム河に流入して下流のデルタまでうるおしてくれるわけで、11月頃にバンコックは晴天であるのに道に水が逆流して来ることがありますが、このような時機に、このような水が溢れる年が米にとっては一番よいことなのですが、第4表のように本年は北部の雨が大体8月までには半分になっています。

第4表は同じく東北地方も8月までは雨が極めて少なかったことをよく示しています。しかも全国的に、5月と7月に雨期中断のあったことをもう一度思い出して載きたいと思います。これは熱風によって苗代などの若い稲が、枯れたり弱ったりしたことを推定させる根拠だからです。

このような天候事情を考えると、どうも1972年の米の作柄は1967年の最近の不作年より悪いと考えざるを得ないわけです。それではどの程度米が収穫されるものだろうか、強いて推定してみると、(政府は8月以降水田面積の62%に植付が終了したにすぎないとも云っているが)第5表のようにせいぜい10.5~11.0百万トンの収穫になるのではないかと思います。平年作であれば、132百万トンの粳の生産があるはずですから、本年は平年作に比べてほぼ2割の減産となりそうです。

さて、この国では古い資料であります、大人一人当り白米換算は次のような米消費となっています。

中央部では	210 kg
北 部	250 kg
東北部	245 kg
南 部	200 kg

この数字は食用ばかりでなく、種子、菓子、その他家畜等の消費も含まれています。更にロスも含まれています。これを基礎にして、翌年の輸出量を推定しますと、80万~90万トンとなり、どうも戦後最低の輸出量の年になるのではないかと心配されるわけです。

ロ どうもろこしについて

どうもろこしの生産は

1961年	598千トン	1963年	857千トン
62年	665 "	64年	935 "

1965年	1,021千トン	1969年	1,700千トン
66年	1,122 #	70年	1,950 #
67年	1,212 #	71年	2,195 #
68年	1,500 #		

となっており、過去10年間、その生産が前年よりも下廻ったことは一度もありませんが、1972年は、どうやらタイ始って以来始めて、とうもろこしの生産が前年を大幅に下廻らざるを得ない事情にあるようです。どの程度の実績があるのかBOTの発表によると、1971年2,300千トンに対して1972年1,315千トンと云っています。実数はどうであろうと、大幅な減少は確実のようです。

1967年の不作の年でも、米は大きく減少しましたが、とうもろこしに関する限り、生産は増加していました。本年の不作がとうもろこしの大減産にまで及んでいる点に異常な気象条件を知るわけです。

前記タイランド銀行のとうもろこしの生産量(1967年までは農務省の数字と同じであります)が、68年以降はラウンド・ナンバーになっていますから推定数字と思われる)をもとにして生産量の傾向を出して見ますと、

生産量(Y)が100万トンに達するまでは

$$\log Y = 2.8215 + 0.768t$$

$$(R^2 = 0.9080)$$

生産量(Y)が200万トンになるまでは

$$\log Y = 3.1206 + 0.526t$$

$$(R^2 = 0.9846)$$

となり、大体化学実験の方程式、あるいはそれ以上の正確さをもって、前者の場合には、年率約7.7%、後者の場合には年率約5.3%の割合で、生産量が伸びて来ています。

おそらく1971年にはじめて200万トンの線を出したので、年率の伸び率にある変化がそろそろあるだろうとは思われますが、一応72年も従来と同じようにのびたとすれば240万トンの生産量がノーマルであるはずで、(第3図を御覧下さい)それが130~140万トンと予想されるわけですから大へんなことです。

1967年のとうもろこしの生産量を上記方程式によって計算してみますと

132万トンであります，それが121万トンであったわけですから，推定生産量の1割減算であったわけです。

ちなみに71年は，推定生産量が，計算式によりますと214万トンですがタイランド銀行の資料によりますと219万トンとれたこととなります。

本年は，計算式による生産量（240万トン）を基準にするならば，予想される生産量が130～140万ですから，ほぼ6割作，4割の減産となるわけです。

第5表 1972年の栲生産予想

(単位：百万ライ 百万トン)

年	可耕面積	植付面積		収穫面積		生産量	kg/rai
			%		%		
<u>1955</u>	40.1	36.0	<u>89.7</u>	33.6	<u>93.2</u>	7.3	215
<u>57</u>	41.5	31.7	<u>76.4</u>	26.8	<u>84.5</u>	5.6	208
<u>61</u>	43.6	38.6	<u>88.5</u>	35.3	<u>91.5</u>	8.2	231
<u>66</u>	47.7	45.7	95.7	43.0	94.1	11.8	276
<u>67</u>	49.1	40.1	<u>81.8</u>	35.0	<u>87.4</u>	9.6	274
<u>68</u>	50.5	44.7	<u>88.4</u>	39.1	<u>87.6</u>	10.8	275
<u>69</u>	51.4	47.7	92.8	45.3	94.9	13.3	295
<u>70</u>	52.3	48.8	93.2	44.6	91.4	13.4	300
<u>71</u>	53.2 ^e						
<u>72</u>	54.2 ^e	43.4	<u>80.0</u>	36.9	<u>85.0</u>	10.4	280
		[48.8]	[90.0]	[43.9]	[90.0]	11.0	300
						[13.2]	

()内は平年作の場合に予想される推定数字

2-5 9月に降った雨

本年バンコックでは9月に2度大雨がありました。これはモンスーンの雨でなく、熱帯低気圧が東からやって来たものです。この雨の影響を受けたのは、第4表に◎を付けてありますように、コーラート高原の南辺と、中央平原の南部に集中的に降雨をもたらしたのですが、北部やコーラート地方の北半分は降雨に恵まれていません。9月の雨もコーラート高原の北半分コンケン以北では依然前年の半分でしかない状態ですから、この国全体から見れば、あまり恩恵にあづかっていることになりません。この国全体としては依然水不足と思われると思います。稲はとうもろこしよりも比較的強い植物です。黄色くなっても一雨来ればまた生氣を取りもどして青くなりますが、何と云っても、雨期前半の水不足で苗代の苗が足りないことも心配です。9月の半ばまでに田植が終れば、何とか収穫にまでこぎつけることが出来ると思われませんが、9月のバラ播きでは、収穫にこぎつけるまでに土壌水分がなくなってしまうのではないかと心配しています。

そしてノーマルにことがはこぶなら、今年も10月の最終の週には雨期は明けるわけです。

ナコンサワンは海拔17メートルですが、例年、10月のおわりないし11月のはじめには、このメナム河の水位が24メートルに達しますが、もし本年この時期に水位が24メートルに達しないならば、本年の早ばつは、いよいよ本格的に米の生産に影響を与えるものだと云えます。

Ⅲ 本年の後半から予想される不作のタイ経済への影響

どうも日本人は取り越し苦労のくせがあり、先のことをあつてもないこうでもないと云うことに興味をもち過ぎると云うそしりをまぬかれないわけですが、現在タイの経済に大きな影響を与える要因が、どうもよい方向に動いているとは思えませんので、あえてその点にふれたいと思います。

表題は以上の通りですが、当面するタイ経済に影響を与える大きな要因に二つがあります。

第1は米軍のサービス購入であり、

第2は1972年の農作物の不作であります。

まづ農作物の不作の関係から述べることにしましょう。

3-1 1972年の農産物の不作の影響

本年はおそらく、近年にない農作物の不作のように思えます。目下世界的に農産物は価格が上ってはいますが、もし本年作のとうもろこしの輸出が100万トンそこそこであり、米の輸出が100万トンを割るようであれば、その影響は極めて大きいことでしょう。1957年の不作の年は、その翌年10億パーツの輸出減となりました。この時にはとうもろこしの輸出の割合があまり大きな比率をもっていませんでしたが、本年はとうもろこしの不作のダブルパンチとなるわけです。

とうもろこしの輸出は10月に始まりますから輸出の減退傾向はそろそろ表面に出て来るのではないでしょう。米の輸出は1月から本格化しますので、1973年に入るととうもろこしと米の輸出不振で、おそらくほぼ20億パーツ程度1972年より輸出が減るおそれなきにしてもあらずと云った感じです。

3-2 米国のサービス購入

米軍のサービス購入がタイの経済に如何に大きな影響力をもっていたかは、既に1-5で述べたわけですが、

1968年の最盛時には米軍のサービス購入はタイのGNP(1,176億パーツ)の4.2%にも及んでいましたが、

1971年にはGNP(推定1451億パーツ)の2.6%に下がっています。

比率だけからみればこのパーセンテージは1966年と同率です。そして第三次社会経済開発計画でもこの数字は暫減せざるを得ないと見ているようです。

この収入が減ることは、この収入に直接間接に関係ある国内購買力の減少を意味し、引いては輸入需要に影響を与えることでしょう。少なくとも1971年に関するかぎり、戦後始めて輸出が増えたのに輸入が減ると云った結果があらわれていることは、この要因が大きく作用したのではないかと思います。

1970年が豊作であり輸出が好調であったのに輸入が減少していることは、1972年、1973年にこの項目がどのような規模になるのかわかりませんが、1972年が平年の作柄であっても、この項目が減少すれば、輸入減の結果を招くと思います。是非もう一度第1図を御覧下さい。

3-3 おわりに

1972年の農産物の不作は、平年作に比して米が2割減、とうもろこしが4割減としますと、農村価格でこの二つだけで約30億パーツに近い収入減になります。それに関連する商業、運輸等まで加えると国民所得にかなりの影響のあることはまぬかれぬと思います。1971年には米軍のサービス購入は38億パーツでしたから、本年の不作の規模と影響力もほゞ想像がつくことでしょう。もし1972年、73年に米軍のサービス購入が減る方向にあるならば国内購買力はまさにダブルパンチをあびたような恰好となり、ある種の商品、特に云われているような製造品の国内消化力にも関連して、工業品輸出の声が大きくなるのではないのでしょうか。

1971年は1970年の豊作をうけた年でありながら米軍のサービス購入の減退による国内購買力のスランプによって輸入が減りました。輸入が減った場合一体どのようなものが減るのだろうか。参考のために第6表として最近のタイの輸入品の商品グループ別の表をつけておきます。1971年には、機械と工業製品の輸入が、実額で対前年に比べて大きく減少した初めての年であることをも付言しておきます。

第6表によりますと、1958年にも機械と工業製品が前年に比べて実額で減少していますが、1957年が不作の年であったことを、もう一度第1図と第一表によって確認していただきたいと思います。

1967年の不作のあとの1968年も米軍のサービス購入が史上最大の50億パーツ、GNPの4.2%と云う規模で投入されなかったならば、輸入はおそらく1958年と同じような傾向をたどったのではないかと思います。この年は幸いにして輸入の落ち込みは米軍のサービス購入に支えられたのですが、本年の不作は1967年の不作よりもきびしく、米軍のサービス購入が1968年のように、対前年に比して大きく増加することが予想出来ない限り1973年国内需要の減退と輸入の減少を心配するのは杞憂にすぎないと云うことは出来ないと思います。

第 6 表

Import Value by classified Commodities
(millions of Baht)

	Total Import (MT)	Food (0)	Beverage & Tobacco (1)	Animal & Vegetable oil and fat (4)	Sub - Total (0+1+4)	0+1+4 /MT
1957	8,536	694	203	19	916	10.7
58	8,237	781	197	25	1,003	12.2
59	8,988	813	171	31	1,015	11.3
1960	9,622	784	108	20	912	9.5
61	10,287	764	197	14	976	9.5
62	11,503	755	147	18	920	8.0
63	12,802	812	144	18	974	7.6
64	14,253	876	183	35	1,094	7.7
1965	15,433	878	192	33	1,103	7.1
66	18,504	975	296	26	1,297	7.0
67	22,187	1,035	313	37	1,385	6.2
68	24,103	1,109	479	38	1,626	6.7
69	25,966	1,345	495	59	1,899	7.3
1970	27,009	1,091	303	35	1,429	5.3
71	26,680	1,030	523	44	1,597	6.0

	Curde Materials		Mineral fuel & Lubricants		Chemicals		Manufactured Goods	
	(2)	(2)/MT	(3)	(3)/MT	(5)	(5)/MT	(6)	(6)/MT
1957	74	0.9	928	10.9	754	8.8	3,149	36.9
58	72	0.9	901	10.9	757	9.2	2,964	36.0
59	71	0.8	945	10.5	922	10.3	3,116	34.7
1960	143	1.5	1,025	10.7	974	10.1	3,289	34.2
61	207	2.0	1,011	9.8	1,045	10.2	3,757	36.5
62	205	1.8	1,224	10.6	1,190	10.3	3,872	33.7
63	224	1.7	1,221	9.5	1,242	9.7	4,188	32.7
64	282	2.0	1,458	10.2	1,486	10.4	4,343	30.5
1965	477	3.1	1,334	8.6	1,659	10.7	4,829	31.3
66	521	2.8	1,873	10.1	2,141	11.6	5,481	29.6
67	624	2.8	1,588	7.2	2,629	11.8	6,398	28.8
68	623	2.6	1,995	8.3	2,826	11.9	6,248	25.9
69	828	3.2	1,829	7.0	3,319	12.8	6,313	24.3
1970	1,400	5.2	2,329	8.6	3,505	13.0	6,458	23.9
71	1,708	6.4	2,709	10.2	3,703	13.9	5,877	22.0

	Machinery		Miscellaneous Manufactured goods		Others including Gold	
	(7)	(7)/MT	(8)	(8)/MT	(9)	(9)/MT
1957	1,907	22.3	491	5.8	378	4.4
58	1,861	22.6	470	5.7	209	2.5
59	2,200	24.5	487	5.4	232	2.6
1960	2,390	24.8	522	5.4	367	3.8
61	2,455	23.9	500	4.9	336	3.3
62	3,156	27.4	566	4.9	361	3.1
63	3,904	30.5	688	5.4	362	2.8
64	4,520	31.7	689	4.8	381	2.7
1965	4,706	30.5	820	5.3	505	3.3
66	5,860	31.3	955	5.2	436	2.4
67	7,728	34.8	1,217	5.5	624	2.8
68	8,821	36.6	1,338	5.6	590	2.4
69	9,426	36.3	1,684	6.5	666	2.6
1970	9,536	35.3	1,350	5.0	1,002	3.7
71	8,763	32.9	1,491	5.6	830	3.1

